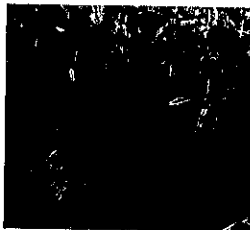


泊次郎

ウィルスの感染経路には、性交渉や輸血などの医療行為、母子感染などがあることも明らかにしたが、エイズの流行は急速に拡大した。中部アフリカなどでは一九八一年以前から、流行が始まっていたからでもある。これまでにエイズによって死亡した人は世界で約三〇〇万人に達すると推定されている。

HIVは、突然変異を起こしやすい。変異を起こしたウイルスはその遺伝子配列を少しずつ変えていく。それゆえHIVに

41 [書評] 104 エイズの爆発的流行をもたらした要因



エイズの起源

ジャック・ペピン 山本浩太郎

みすず書房

装幀：リヒトブランニング
46判・400頁・税込4200円
2013年・みすず書房
原著は The Origins of AIDS
Jacques Pépin (Cambridge University Press, 2011)

泊次郎 プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史

A5判・二六八頁・三九九〇円

東京大学出版会（表示は税込価格）

に流布した。一九五〇年代から六〇年代初頭にかけて米国の経口ポリオワクチンの製造過程で、後に述べるサル免疫不全ウイルスが入り込み、このワクチンの投与が流行の原因になった、という説もある。しかし、ペバン博士はこうした説を一蹴する。一九五〇年以前にすでに人類はHIVに感染していたという証拠があるからである。

エイズが知られるようになった後、サルにもエイズに似た病気があるのが見つかった。その原因ウイルスも発見され、それはSIVと呼ばれるようになった。SIVにもさまざまな種類があり、捕獲されたサルやゴリラ、チンパンジーが調べられた。その結果、HIV-1の遺伝子配列に最も近いのは、ツェゴチンパンジーというチンパンジーから分離されたウイルスであることが判明した。ツェゴチンパンジーは、コンゴ共和国やそれと南東部で国境を接するカメルーン（旧フランス領カメル

ーンと英国領カメルーン）など七カ国に生息している。このうちカメルーン南部の森にすむ一〇六頭のツェゴチンパンジーの糞が調べられ、一六頭がSIVに感染していることが分かった。その多くはHIV-1MかINに近縁の種類であった。チンパンジーには、テナガチンパンジー、マスカチンパンジー、ナイジェリアチンパンジーという種類もいる。しかし、マスカチンパンジーやナイジェリアチンパンジーはSIVを持っておらず、テナガチンパンジーのSIVは遺伝子系統樹から見ると別の群を構成する。こうした事実から、ツェゴチンパンジー由来のSIVが、HIV-1Mの起源であることが確実である。すなわち、SIVが変異してHIV-1Mに進化した、とペバン博士は考えている。

分子時計を使った研究の結果、HIV-1Mの共通の祖先は、一九二一年ごろまで遡れることが判明した。ベルギー領時

代にレオポルドヴィル（現在キンシャサ）の病院で一九五九年、一九六〇年に取り出され保管されていた組織標本から、HIV-1Mが分離され、この二つのウイルスの遺伝子配列を解析した結果である。

中部アフリカの人々は、おそらくそこに住み始めて以来ずっとツェゴチンパンジーとの接触があったはずなのに、チンパンジーからヒトへの感染がなぜ一九二一年ごろに起きたのであるうか。ペバン博士はその要因として、植民地化によって鉄砲が持ち込まれ、チンパンジーが住む密林が開かれたことをあげて、これによって、それまで人々の狩猟の対象にならなかったチンパンジーも獲物にされるようになった。

中部アフリカでもチンパンジーなどの野生動物の狩猟は禁止されていた。しかし、密猟は難しくなかった。仕留めた獲物は森の中で、運搬に便利ないように解体される。狩猟や解体中に、

引っかけ傷や噛み傷などを通してチンパンジーの唾液や血液に直接接触する機会があったはずである。カメルーンの村でのアンケートなどをもとに、一九二一年に生きていた人でツェゴチンパンジーの血液に最低一回でも接触した人は、一三五〇人程度と見積もられる。これにツェゴチンパンジーのSIV保有率と感染確率を掛け合わせれば、ツェゴチンパンジーからウイルスに感染した人は二人程度になる、というのがペバン博士の推定である。

しかし、この程度の感染者がただけではヒト社会で流行はしない。たまたまウイルスに感染したとしても、エイズを発症すれば致死率が高いので、患者と、運悪く感染したその妻が死亡すればそれで終りになる。流行を起こすほどに感染者を増やすには、何らかのシステムが必要になる。

そのシステムは、住民への医学的介入であった。中部アフリ

極寒の世界で繰り広げられる最新研究と日常の生活のすべてを明かす！

命がけで南極に住んでみた

ゲイブリエル・ウォーカー 著 四六判上製・428頁
仙名紀訳 2625円

マイナス70度、暗黒フリザード、ホワイトアウト……。想像を絶する過酷な環境。しかしなぜそこに居るのか？人を拒み続ける酷寒の大団に長期滞在し、全土を回ってわかった、南極という未知の世界のすべて。

慶長遣欧使節派遣400年記念出版！

キリシタン将軍 伊達政宗

大泉光一 著 四六判上製・322頁・2940円

支倉常長がヨーロッパに渡った真の目的は？日本のキリスト教徒たちの悲願は、政宗が將軍になることだった！慶長遣欧使節団に政宗が託した機密事項から明かになる驚愕の真実。東北の雄伊達政宗の秘めた野望を、支倉常長研究の第一人者が解き明かす！！

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13
TEL 03 3830 1891 FAX 03 3830 5337
URL http://www.kohiwasho.co.jp/ [Eメール]

こうした善意の行為によつて、感染症の流行を招いた例は数多い。例えばルーマニアでは、一九八〇年代後半から九〇年代初めにかけて五千人以上の子供がHIVに感染した。感染のほとんどは、保護者のいない子供たちの養護施設で起きた。そこで、ビタミンや抗生物質、ワクチンなどの注射に注射器や注射針が共用されたための悲劇であつた。やはり血液を通じて感染するC型肝炎ウイルスも同様である。ペバン博士のカメルーン南部のある村についての調査では、六〇歳以上の住民の五六%以上がC型肝炎ウイルスに感染していた。マラリア治療のため

青木淳一
博物学の時間
大自然に学ぶサイエンス

注射によつて数百人に増えたHIV-1M感染者のうちの一人がある時、フランス領赤道アフリカの最大の都市・ブラザヴィールか、ベルギー領コンゴの最大の都市・レオポルドヴィールに移住する。二つの都市は船で二〇分という距離にある。そこには単身で移住してきた男性を主な対象とする、売春という感染拡大のシステムが存在した。HIV-1Mに感染した男性が女性に感染させ、その女性がまた別の男性に感染させたのである。

当時の売春は、「自由女性」によって主に営まれていた。「自由女性」は平均三人ほどの特定の客を持ち、セックスだけでなく料理などさまざまなサービスも提供した。「自由女性」は定期検査を義務付けられていた。そこで梅毒の抗体が陽性と分ると、治療のために注射を受けた。この注射も、感染拡大に寄与

一九六〇年になって二つのコンゴは独立した。その後の混乱や内戦によって、貧困と失業が拡大し、避難民が大量に首都に流れ込んできた。一日に何人もの客をとる売春婦が出現した。これに伴って、感染は急激に拡大した。一九七〇年にキンシャサ（旧レオポルドヴィル）の乳幼児健診クリニックを受診した女性の〇・一二％がHIV-1Mに感染していた。一九八〇年にはそれが三％になった。

ウイルスはコンゴ民主共和国から、アフリカ大陸の他の地域へと広がっていった。東アフリカにはサブタイプAが、南部アフリカにはサブタイプCが、一九七〇年代にそれぞれ持ち込まれた。あちこちで起こった内戦を闘った兵士や避難民が自分た

元配偶者とのつきあい方、子どもへの関わり方のコツについて、心理学の認知行動理論を背景にした実践的な技法を提供。

J・A・ロス J・コーラン 著
青木聡・小田切紀子 訳
四六判・264頁・定価2000円(税別)

赤ちゃんポスト発祥の地ドイツでの実態や研究の動向、国内での赤ちゃんポストの実践の紹介を通して、今後の議論の基盤をつくる。

A5判、268頁、定価1,500円(税別)

柏木恭典 著

〒603-8303
京都市北区紫野十二坊町12-8
TEL.075-431-0361
FAX.075-431-9393
<http://www.kitaohji.com>

「新大陸」にウイルスを持ち込んだのは、ハイチ人であった。ベルギー領コンゴが独立した一九六〇年から六六年にかけては、計四五〇〇人のハイチ人が外国人教師としてコンゴ民主共和国で働いていた。そのうちの一人がサブタイプBに感染して六六年に帰国して、恐らくハイチの売春婦に感染させた。かくしてハイチでの流行が始まった。

ハイチでの流行の拡大には、一九七一年から事業を始めた血漿分離センターが大きな役割を果たした、と考えられる。このセンターでは、多くの献血者の血液を採血してそこから血漿を分離して、赤血球などは献血者の体内に戻した。多くは売血者からなる献血者が、次の献血を行いやすくなるためであった。献血者の一人がウイルスに感染していたなら、同じ血漿分離装置を使った献血者の多くが、ウイルスに感染したに違いない。同じように一九八〇年代末から九〇年代初頭にかけて、メキシコやインド、中国などでも売血者の間でHIV感染が幾何級数的に増大した例が報告されている。

米国には、ハイチを経由して一九六九年ごろウイルスが持ち込まれた。ハイチに旅行した米国の男性同性愛者がハイチの男性売春夫からウイルスに感染し、帰国後、米国の男性同性愛者の間に感染を広げた、と考えられる。流行拡大には、男性同性愛者ばかりでなく、薬物常習者も大きな役割を果たした。西ヨーロッパには一九八〇年代に、米国を経由してサブタイプBが

持ち込まれた。インドにも一九八〇年代になってサブタイプCが恐らく南アフリカ共和国から持ち込まれた。

もう一つの感染ルートに、血液凝固因子製剤があった。売血者の血漿から作った非加熱製剤がウイルスに汚染されていたため、血友病患者の多くがHIVに感染するという悲劇が日本はじめ多くの国で起きた。だが、世界全体でのエイズの感染拡大という観点から見れば、その影響はごく限られたものであった。

エイズが大流行を招いた原因についてのペバン博士の推理の要点は以上のようなことになる。状況証拠にすぎない話もあるが、博士はそれを明示している、好感がもてる。結局、エイズの大流行を招いた要因は、植民地化されて以降のアフリカ社会の変貌と、滅菌されていない注射器と注射針の再利用であった。人類の歴史上、感染症の流行過程がこれほど徹底的に調べら

原田大樹 例解 行政法

A5判・五四四頁・三七八〇円

持田信樹 地方財政論

A5判・三三八頁・二九四〇円

今橋聖子 兎とかたちの日本文化

A5判・二〇二頁・二九四〇円

工藤庸子

近代ヨーロッパ・パルナソス文化論

近世小説・ナポレオン法典・政教分離

A5判・六四八頁・八一九〇円

神野志隆光
リベラルアート

万葉集をどう読むか

A5判・二九六頁・三一五〇円

歌の「発見」と漢字世界
東京大学出版会（表示は税込価格）

敦煌歴史文化絵巻

よみがえる古文書―敦煌遺書

郝春文著／山口正晃訳／高田時雄監訳／三三〇円

敦煌の飲食文化

高啓安著／山本孝子訳／高田時雄監訳／二二〇円

敦煌の民族と東西交流

朱新江著／西村陽子訳／高田時雄監訳／二二〇円

朱永新中国教育文集

苦境と超越 現代中国教育評論

朱永新著／牧野篤監訳／五三〇円

中国現代教育思想史

朱永新著／王智新訳／四七三円

私の理想 新教育の夢

朱永新著／石川啓二・王智新訳／二九四〇円

価格 5%税込

中国出版文化の総合情報誌

月刊 東方
年間購読料 1000円
〔見本誌無料贈呈〕

東方書店

東京都千代田区神田神保町 1-3
tel.03-3937-0300 fax.03-3937-0955
http://www.toho-shoten.co.jp/

（とまり・じろう 科学史）